

令和の里海づくりモデル事業	
取組	アサリ再生活動を契機とする「里海」・松永湾の再生・利活用に向けたバージョンアッププロジェクト
概要	かつて松永湾は「豊かな生物多様性」と「豊かな海とヒトのつながり」が両立した「里海」であったが、現状はアサリの生息数の激減、生物多様性の減退など、その機能を失いつつある。アサリ再生活動をはじめ、エコツーリズムの検討、ブルーカーボン事業など新たな機能を追加し、生物多様性の向上と、海とヒトの「つながり」の再生を通じ、松永湾の再生と、更にはバージョンアップを目指す。
背景	
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>尾道市・松永湾は古くから塩田として開発され、製塩業衰退後も塩田跡地にアサリをはじめ多くの生物が生息する、豊かな生態系を形成していた。</li> <li>尾道東部漁業協同組合は組合員が松永湾を生活の場とし、多様な水産資源の管理を担う。</li> <li>沿岸地域の住民も日常的に食糧採取の場として松永湾を利活用。</li> </ul>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>宅地造成等のため塩田跡地の埋立が進み、水質悪化や近年の気候変動に伴う水温上昇の影響などから、生息する生物の個体数並びに多様性は失われ、生物多様性が減退。</li> <li>アサリの激減など生物多様性が減退する過程で、仕事の間、生活の間としてヒトとのつながりも減退し、里海に必要な「ヒトの手」が入りにくい状況。</li> <li>「ヒトの手」が入らなくなることで、生物多様性が減退し、「里海」としての機能を急速に消失するという悪循環に陥っている。</li> </ul>

## 保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

### 【保全】

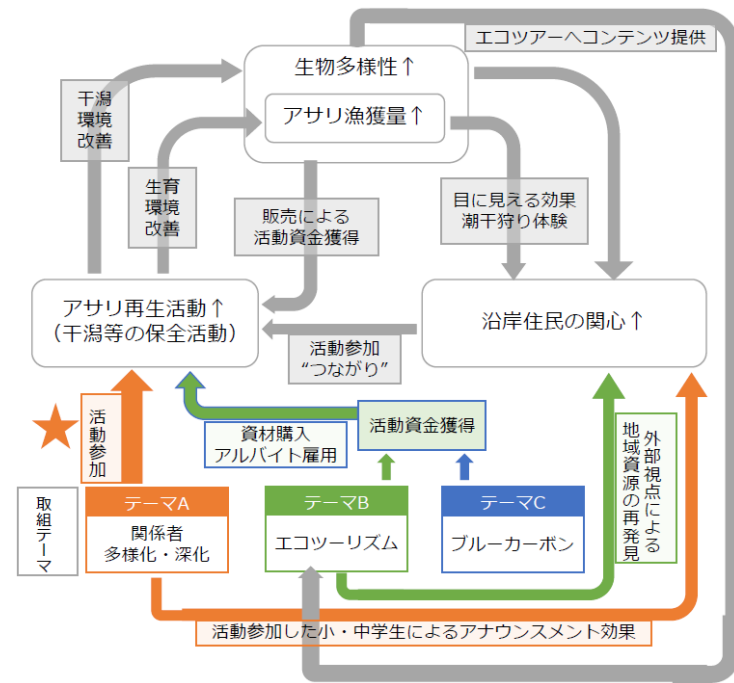
- 過年度から取組んできたアサリ再生活動について、これまで連携が十分に取れてこなかった企業、大学生等、関係者（ヒト）の多様化と深化を目指す。
- セミナー開催、沿岸の小・中学生への出前授業の実施により、沿岸住民の関心度を向上させる。

### 【活用】

- 尾道観光協会と協力し、観光客によるアサリ再生活動への参加や時期によっては潮干狩り、また松永湾のその他の「里海」機能（藻場等）を周遊するパッケージ化したエコツーリズムの立ち上げを目指す。

### 【好循環形成・促進】

- 将来、CO2 吸収の場としての干潟・藻場が生み出す環境価値を販売し、資金を当 PJ に投入することで更に豊かな「里海」を形成する好循環の実現を目指す。
- 尾道市の「ブルークレジット案件「尾道の海のゆりかご（干潟・藻場）再生による里海づくり」プロジェクトを踏まえ、ブルーカーボンの可能性を調査する。



## 令和の里海づくりモデル事業での取組

取組	アサリ再生活動を契機とする「里海」・松永湾の再生・利活用に向けたバージョンアッププロジェクト
主な実施内容	<p>【令和5(2023)年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アサリ再生活動の加速             <ul style="list-style-type: none"> <li>アサリ再生サイト造成・再生活動の実施</li> <li>尾道海の豊かさ共同セミナーの企画・開催</li> <li>地元の小学校への出前授業、アサリ造成体験</li> <li>SNSを活用した情報発信 など</li> </ul> </li> <li>エコツーリズムの検討             <ul style="list-style-type: none"> <li>尾道観光協会と連携したエコツーリズム商品の検討（検討会開催）</li> </ul> </li> <li>ブルーカーボン事業の検討             <ul style="list-style-type: none"> <li>アサリをはじめとした生物の生息状況調査を実施。</li> <li>調査には小学生も関与してもらい、松永湾の実態に触れる機会を提供。</li> </ul> </li> </ol>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>アサリの漁獲量2トンをKPIとして設定、概ね達成見込み。             <ul style="list-style-type: none"> <li>アサリ採取は春（3月下旬～5月下旬）と秋（10月上旬～11月初旬）に行われるため、R5年度の結果は2024年3月頃の試験採取により判明予定。なお、2023/9/28時点の調査においては、KPIは概ね達成可能と史料。</li> </ul> </li> <li>関与人数（累計）50人をR5年度のKPIとして設定、合計4回実施したアサリ再生活動の参加者は合計83名となり、達成。</li> </ul>
今後の課題・展望	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヒトの多様化の観点             <ul style="list-style-type: none"> <li>地元住民の関与が限定的/今後も継続的に関与する人員の確保</li> </ul> </li> <li>生物の多様化の観点             <ul style="list-style-type: none"> <li>環境改善に取組んだ干潟一部のみ、アマモ場の再生・保全未着手</li> </ul> </li> <li>機能の多様化の観点             <ul style="list-style-type: none"> <li>アマモ場の再生・保全が未着手/エコツーリズムが検討段階に留まる</li> </ul> </li> <li>持続可能な組織による永続的運営の観点             <ul style="list-style-type: none"> <li>当漁協の組合員の高齢化/安定財源確保</li> </ul> </li> </ol> <p>⇒これら課題については令和6年度「令和の里海づくり」モデル事業に改めてチャレンジ、課題の克服並びに当PJのGoal達成を目指す</p>



アサリ再生活動の様子



小学校での出前事業  
(アサリ再生活動紹介)



小学生とアマモ苗の育成を協働



小学校での出前事業  
(カーボンニュートラルゲーム)



「尾道海の豊かさ共同セミナー」  
の開催

関係者（ヒト）の多様化に向けた取組